

事例2 探究的な学習【情報の収集】

情報収集の過程において、より効率的・効果的な手段、多様な方法を選択できる生徒を育成する事例

- 学年 第1学年
- 探究課題 働くことの意義と自己の生き方（職業・将来）
- 主な事例のポイント ※それぞれ実践例にて紹介
 - ①問いや思いをもつための「情報収集」を行う。
 - ②方法の違いによって「数値化・言語化した情報」、「感覚的な情報」など、収集できる情報に違いがあることを意識した「情報収集」を行う。
 - ③課題解決のために自覚的に「情報収集」を行う。

1 単元名 「働く」とは何か？

2 単元の目標

職業・将来に関わる探究的な学びを通して、問いの解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、働くことの意義や働くために必要なことについて考えることで、仕事と自分との関わりに深く関心をもち、今後の学びや自己の生き方につなげていこうとする。

3 生徒の実態（略）

4 教材について

探究課題は、「社会で働くことの意義と自己の生き方」である。これを生徒一人一人の疑問や関心とつなげて、個人課題を設定させる。保護者や大学生、専門家や地域の方々との関わりを通して、働くことの意義や価値についての理解を一層深めさせる。この単元の最後には、自分の将来についての「ライフプラン」を構想する時間を設け、3年次での進路選択や卒業後のよりよい生き方につなげていこうとする態度を養いたい。そして、このような活動を通して、自己実現のために今、すべきことを考えたり、地域や社会の一員として自分にできることを考えたりすることができる生徒の育成を目指す。

以上のような理由から、この単元では社会貢献とは何か、働くことの意義とは何かを考える探究的な学習の過程で、社会人にアンケート調査を行ったりするなど、実際に働く社会人と関わりながら、必要な情報を収集、分析していく活動を重視していきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域や専門家の方々の仕事に対する姿勢や願いを通して、それぞれの職場や職業の内容を理解するとともに、働くことの意義についての自分の解をもっている。 ②調査活動を目的や対象に応じた適切なものとして実施している。 ③働くことの意味を考える学習の成果が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。	①働くことの意義について、自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから、自分自身で問いを設定しているとともに、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。 ②自分の目的や意図に即した情報を効率よく収集し、多様な情報を蓄積している。 ③収集した情報を比較したり関係付けたりして、共通点や相違点を見つけ、関係や傾向を明らかにしている。 ④相手や目的に応じて自分自身の考えをわかりやすくまとめ、適切な方法で表現している。	①探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考えを受け入れ、尊重しながら、学び合おうとしている。 ②自分の意志で目標に向かい、自他のよさを生かしながら他者と協働して問いの解決に取り組もうとしている。 ③自ら設定した問いの価値に気付き、自己の生き方を考え、夢や目標などに向かって学び続けようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画 (50 時間扱い)

※「課題」：課題設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価 (評価方法)
課題 情報	<p>○総合的な学習の時間についてのオリエンテーションを行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校における「総合的な学習の時間」や「探究」とはどういうものだろう。 ・今年度の「職業・将来」の学習のねらいは何だろう。 <p>○「働くとは何か？」についての討論会(働くこと討論会)を開く。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとっての「働く」って、○○することだと思う。 ・みんなや先生方、他の人々はどう思っているのだろう。 ・何のために働くのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間のねらいや進め方について確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。 <div data-bbox="858 371 1426 421" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事例のポイント① 実践例1を参照</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「働く」とは何かをK J法やダイヤモンドランキング等を用いて考えることで、「働く」という形にはいろいろな方法や意義があることに気付くことができるようにする。 ・ここでは、「働くことの意義の一つである社会貢献」を視点として、人は何のために働くのか討論会を行うことで、いろいろな考えに気付くとともに、実際に働いている人に聞いてみたいという思いをもてるようにする。 <p>○思・判・表① (活動の様子・ワークシート)</p>
課題 情報 整理 表現	<div data-bbox="288 837 783 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 課題①仕事って何だろう。身近な人の仕事とその思いを調査しよう。 </div> <p>○課題を解決していくのに必要となる情報を収集する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献やインターネット、インタビュー調査など多様な方法で情報収集を行う方がよい。 ・思いを知るには、直接もしくはオンラインでお会いしてみないとわからないだろう。 <p>○調査結果を整理・分析して、自らの問いを見つける。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○という職業も、やりがいがたくさんあるんだ。 ・お金のために働くのも大切な理由だ。 ・○○さんは、職業を選ぶのにそれまでの生き方が大きく関わっているんだ。 ・他の職業に就いた人はどうなのだろう。 <p>○調査結果をよりよく伝える方法を考える。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真資料やインタビュー映像、音声などを提示したいから、スライドを作成したいな。 ・発表の途中にみんなにもどう思うか投げかけるなどして、参加型の発表形式で交流してみよう。 <p>○キャリアワークショップ①で、調査結果を効果的に伝える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会には様々な仕事や職業、価値観があるのだな。 ・他者の考えを聞くことで、より自分の世界が広がったように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「働く意義」と「自己の生き方」をつなぐものとしての「仕事」について、身近な人を例として調査活動を行うことを伝える。 <div data-bbox="858 943 1426 992" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事例のポイント② 実践例2を参照</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートなどを工夫し、調査する職業の業務内容や統計情報と、それとは別のインタビュー対象者本人の「働く目的」などを語る姿から伝わる印象などといった感覚的な情報を得ることは、それぞれに適した方法があることに気付くことができるようにする。 <p>○知・技② (インタビュー内容・ワークシート)</p> <p>○思・判・表② (活動の様子・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Yチャートで「場所」「もの」「出来事」の観点で情報を整理したり、関連付けたりしながら話し合い、気付いた働くことの魅力を明確にできるようにする。 ・調査対象と自分の考えを対比させ、自分との関わりを意識させることで、単なる調査活動に終わらせないように留意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT端末を活用する利点に気付き、適切な表現方法を考えることができるようにする。 ・身近な人の職業調査の情報交換を通して共通点や相違点を見だし、「仕事は何のためにやるのか」「仕事のやりがいってなんだろう」という問題意識を高める。 <p>○態① (活動の様子・発言・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会には多様な仕事や職業、価値観が存在することに気付き、豊かな職業観が醸成されるようにする。



情報	<p>○講演会で新たな視点をもつ。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとっての「働く」とは、きっとこうだと思っていたけれど、また別の視点もあるようだ。 ・働くとは、そんなに単純じゃないんだな。次は、実際に体験してみたいな。 	<p style="text-align: center;">事例のポイント① 実践例1を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが調査した職業とは別の視点で講師を招き、講演会を実施する。 <p style="text-align: center;">編 P174 指導計画作成の留意事項(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会で講師の話から、社会人がどのような目的で働いているのかを知り、自己の職業観について考えを広げられるように働きかける。
<p>課題</p> <p>情報整理</p> <p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理表現</p> <p>情報</p> <p>整理表現</p>	<p style="text-align: center;">課題②職場体験を成功させ、もっと「働くこと」に迫ろう。</p> <p>○職業に就くまでの進路と「職場体験」のねらいや概要について知る。(1)</p> <p>○進路の多様性について、整理する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路や、一般的な就職までにはそれぞれの職業に応じて、色々な道りがあるのだな。 <p>○個人で探究テーマを設定する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金のためだけに働くのだろうか。 ・難しい仕事なのになぜ、充実して働けるのか。 ・同じ職業についている人は、その職業にやりがいを感じている部分は同じなのだろうか。 <p>○事業所が確定したら、実際に行く事業所を中心に調査活動を行う。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の探究課題を解決するためには、体験場所でこんな体験(調査)ができるといいな。 <p>○事業所ごとに分かれ、活動計画の作成や事前打ち合わせのアポイントの取り方、訪問する際のマナー、事業所の方に対しての接し方について学ぶ。(2)</p> <p>○履歴書(自己PR書)を作成する。(1)</p> <p>○各事業所に行き、事前打合せを通して、当日の活動内容や心構え、注意事項などを確認する。(2)</p> <p>○活動計画書を作成・完成する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このインタビューの時間で、探究課題に関する質問をさせてもらおう。 ・利用者さんと事業所の方との関わり方をしっかり観察させてもらおう。 <p>○各事業所に通い、体験活動を行う。事業所の方からの話などから、その仕事について、働くこと、あるいは社会人として身に付けることを学ぶ。(12)※</p> <p>○お礼状を作成する。(1)</p> <p>○体験報告書を作成し、現時点での探究テーマに対する答えを表現する。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した体験で、自分の考えが深まったな。次はこの考えを誰かに聞いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから、社会の一部を担っている企業や施設の職員の方々とともに働かせていただくことで、「働くとは何か」について、体験的に調査を行うことを伝える。 ・市販の進路ガイドなどの冊子やポートフォリオシートなどを活用し、自分の特性を理解するとともに、進路についての情報を整理する。 ・キャリアワークショップや講演会後の疑問や問いを共有し、焦点化していく。 ・予想と比較したり、「仕事と個人の生活」「社会貢献」に焦点化する話し合いを設定したりして、勤労観の多様性をもとに話し合いに向けた自分なりの考えを構築する。 <p style="text-align: center;">事例のポイント② 実践例2を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が探究テーマを追究していくために必要な情報や方法を検討し、インターネットや本による文献研究やインタビュー活動、アンケート分析などを選択して情報を収集する。 ・自分の興味・関心、将来の設計をもとに職場体験の職種と体験場所を決定する。 <p>○知・技②(インタビュー内容・ワークシート)</p> <p>○思・判・表②(活動の様子・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験で明らかにしたい課題や探究したい視点を焦点化していく。 ・事前訪問で得た情報のメモを基に、体験当日の活動計画表を作成させる。計画表の中に、自身の探究課題の解決につながる活動に印をつけさせるなど、目的意識を高めさせる。 <p style="text-align: center;">事例のポイント③ 実践例3を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に働く人々との関わりを通して、勤労の尊さや意義の理解を促す。 <p style="text-align: center;">編 P174 指導計画作成の留意事項(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をもとに考察したことをまとめていく。さらに必要な情報は何か、そのための方法は何かを検討しながら探究を深めていく。 <p>○知・技①(体験報告書)</p> <p>○思・判・表③(活動の様子・体験報告書)</p>

<p>課題整理</p>	<p>課題③ キャリアワークショップを開いて、自分の未来希望図を描こう。</p> <p>○表現方法を計画し、発表資料を制作する。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで蓄積した資料をどのようにつないでいけば論理的な流れになるかな。 あの場面は印象的だったな。ここで考えが変わったんだ。このことをみんなに伝えたい。 前回の職業調査はフリップ形式で発表したから、今度は、ICT端末を使って効果的な動画の編集に挑戦したいな。 僕はプレゼンが得意だから、ポスター形式で人を呼び込んで伝えたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの探究の過程を振り返り、ワークショップ形式で広く情報を共有することで、自らの未来についての考えに自信をもって表現できるように成長してほしいことを伝える。 表現方法を考えるにあたって、これまでに蓄積した資料や探究の過程を振り返り、再整理することで、自己の成長や自分の未来へのつながりを捉え、よりよい発表につなげることができるよう働きかける。 プレゼンテーションソフトや動画編集等、多様な表現方法を活用させ、自身に合った方法で探究の成果を表現する。 個に応じた指導によって、自分の得意を生かした効果的な表現方法を選択できるように支援する。 キャリアワークショップに向けて、どのような工夫をしていけば自分の考えを効果的に伝えることができるかを考えて、発表準備を行うよう働きかける。
<p>表現</p>	<p>○学級内で交流会を行う。(2)</p> <p>○キャリアワークショップ②で、これまでの歩みを伝える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 僕の(私の)探究テーマへの解は…。解にたどり着くために、このような調査、体験を通して、根拠を得てきました…。  <p>○探究の成果を「未来希望図」とつなげ、レポートにまとめる。(2)</p>	<p>○思・判・表④(活動の様子・発表資料)</p> <p style="text-align: center;">編 P174 指導計画作成の留意事項(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者や1年生にこれまでの探究の過程や探究を通して考えたことを伝え、双方向の意見交流を重視することで、「働くこと」についての考えをさらに深めさせていく機会とする。 「働くとは何か？」について、この時点での考えを明らかにし、学びを通じた自己の変容を自覚する。 これまでの探究を振り返り、自身の「未来希望図」とつなげることで、社会の中で自分はどう生きていきたいか、働いていきたいかをまとめる。 <p>○知・技③(レポート)</p> <p>○態③(活動の様子・レポート)</p>

※職場体験当日の時間は、教育課程上、総合的な学習の時間や特別活動等で扱うことができる。ただし、特別活動において職場体験を実施する場合には、「望ましい職業観・勤労観の形成」などに関わる特別活動の目標やねらいを踏まえること、総合的な学習の時間に実施する場合には、その探究課題や目標、ねらいを踏まえることに留意し、教育課程に適切に位置付けることが大切であるとされている。なお、本事例では、職場体験当日は特別活動の時間に位置付けており、特別活動と総合的な学習の時間を関連付けて実施している。

<参考資料>

- 文部科学省ホームページ「中学校職場体験ガイド 第2章 教育課程上の位置付けと学校における体制づくり」より
(URL:https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026/002/001.htm)

7 実践例

【実践例1】 問いや思いをもつための「情報収集」

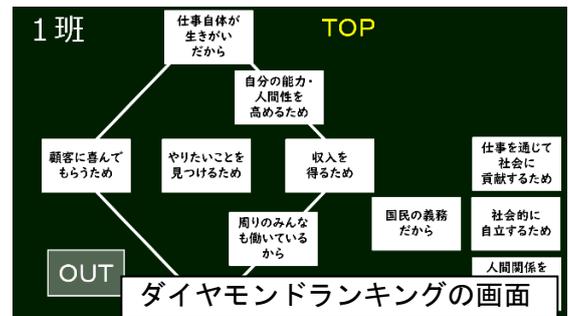
(1) 概要・ねらい

本事例は、生徒自身がそれぞれの問いや思いをもち始め、探究的な課題設定へとつなげるための情報収集活動である。ここでは、働くことの意義や本質に迫るための探究的な問いを設定するために、まず自己の勤労観などの概念を明らかにする。続いて、自分にはない新たな考え方や視点などの情報を仲間や専門家などから収集する。その収集した情報を比較したり関係付けたりして共通点や相違点を見つけ、関係や傾向を明らかにすることを通して、自分の考えと仲間や働いている人々との考えの隔たりから、自分自身で問いを設定することにつながられるように工夫している。

(2) 活動の様子

①ダイヤモンドランキングを用いて、「働く意義」について情報を集める。

探究活動のはじめには、KJ法によって「働く意義」について個人で自由に思考し、自分の考えを外化する活動を行う。次に、外化したそれぞれの考えは、ICT端末を用いて共有し、学級全体で「働く意義カード」を作成する。続いて、個人でダイヤモンドランキングを作成した後、班ごとにプレゼンテーションソフト上で共同編集を行い、それぞれの考えを共有した。最後に、学級全体で広く共有し、働くことの意義について、収集した情報を比較したり関係付けたりして、共通点や相違点を見つけ、関係や傾向を明らかにし、自分自身で問いを設定しはじめるきっかけづくりの機会にしている。特に、仲間以外の学校の教員や他の社会人にも考えを聞いてみたいという気持ちを醸成することを大切にしている。



ダイヤモンドランキングを共同編集する様子

②働くこと討論会を開いて、「働く意義」について情報を集める。

働くこと討論会には、多くの保護者や学校関係者に協力いただいている。生徒の中だけでとどまっていた職業観や勤労観について、視野を広げて概観するために、ゲストティーチャーを講師として招き、各教室に分かれてワールドカフェ方式で自由に討論している。ここには、学年教員も参加し、様々な立場の人々と広く交流できるように工夫している。



講師との双方向のやりとりの様子

③講演会を開いて、「働く意義」について情報を集める。

身近な職業調査の後には、自身の職業観や勤労観にもとづいて課題を設定するために、4名の講師を招いて講演会を行う。ここでは、講師の職業紹介を含めたプレゼンテーションを聞き、その後、その職業に関わる体験活動等を行っている。多様な職種について広く知るとともに、直接体験として講師の方の声が生徒に届くことで、生徒たちが仕事の内容とリンクした「働くことの意義」や「働きがい」について実感を伴って理解すること支援している。



各教室での講演会の様子

これまでの講師には、国土交通省職員やドラム講師、旅行代理店職員、看護師、カメラメーカー勤務職員など多様な職種の方々にお越しいただいている。

【実践例2】 方法の違いによって「数値化・言語化した情報」、「感覚的な情報」など、収集できる情報に違いがあることを意識した「情報収集」

(1) 概要・ねらい

本事例は、ICT端末を使ってインターネット（WEB）検索しようとなりがちな情報収集の過程を、インタビューなどの対面のコミュニケーション、体験を通じてしか得られない情報の価値や違いに気付かせる活動である。充実した情報収集のため、ICT端末を活用することで有効に展開できる側面を大切にしつつ、アナログとデジタルをうまく組み合わせたり、選択できたりする生徒を育成することをねらいとしている。

(2) 活動の様子

①「身近な職業調査」を通して、効果的な情報収集の方法を学ぶ。

〇〇中学校
第1学年 総合的な学習の時間

探究基礎講座②
情報の収集
「情報の収集」の仕方とは？

情報の収集 インタビューの流れ

下調べ → 質問項目 → 対象

予約 → 訪問 → インタビュー

礼状 → 記録

<情報収集のパターン>

①アンケート調査（街頭・WEB） ②フリップボード ③インタビュー（対面・リモート） ④インターネット検索 ⑤電話・電子メール・手紙 ⑥図書館の図書、文献 ⑦講演会やセミナー ⑧観察・実験、実習

これらの情報を形式をそろえて集積し蓄積する（アナログ・デジタルポートフォリオ）

ここでは、調査に先立って基礎講座として情報収集のスキルについて学習する。情報収集に関わるスキルには、「情報収集の仕方」「図書館の利用」「著作権の理解」「情報モラル」などがある。生徒たちには、情報収集のパターンと得られる情報の種類を関連付けて理解させ、その場面において、どのような方法を選択すれば効果的、効率的な情報収集ができるかを考えることができるようにする。

「身近な職業調査」は多様な情報収集の価値を実感するために、インタビュー形式を基本としている。調査をまとめるレポートには、WEB検索で得られる数値化・言語化された情報としての「仕事の内容や特色、その仕事に就くまでの流れについて（進路・資格など）」や、インタビュー対象者自身の考えである「その仕事に就こうと思った時期や理由、やりがいや、働く目的は何だと思うか」について記入させている。さらに、インタビューを通して感じることでできた「感覚的な情報」も探究を継続するための大切な情報である。そのため、活動後には生徒に活動を振り返らせる時間を十分に確保している。下記の感想を書いた生徒は、インタビュー対象者の貴重な思いや姿勢に触れることができたことの価値を実感し、それが生徒自身のこれからの生き方につながるという自覚をもつことができた好例である。最後に、生徒同士で交流する場において、このような振り返りを含めた調査情報を共有することによって、多様な情報収集のそれぞれの価値について広く実感させることをねらう。

②体験事業所調査を通して、効果的な情報収集を行う。

身近な職業調査を振り返って

実際に働いている人の話はとてもよい経験になりました。それぞれの立場からお話を聞かせていただきましたが、どの方も自分の仕事に「誇り」や「生き甲斐」、「やりがい」を感じていることが言葉以上に伝わってきました。また、「楽しさ」や「面白さ」、「自分の興味があること」はいつまでも持ち続けることが重要だと教えてもらいました。「勉強」も自分の視野を広げるという意味でとても大事だと改めて思った。しっかり学び続け、自分のなりたい・やりたいに正直に、自分の好きを持ち続けたいです。

「体験事業所調査」については、生徒自らが調査方法を考え、上記の情報収集のパターンを組み合わせる調査を行う。このとき、自身の探究テーマの解決に必要な情報を収集するという視点をもって、自覚的に行わせることを大切にする。

